



5年  
2月号  
2月3日

学校と家庭が連携して、道徳教育を推進していきたいと思います。  
学校で行った道徳の授業についてお知らせいたします。家庭で話し合ってもらいたいことをもとに、お子様といろいろな話をして下さい。  
また、保護者の皆様の経験にもとづく話もできればとてもよいと思います。  
よろしくお願いいたします。

## ★資料名

### くずれ落ちた段ボール箱

## ★今回の道徳の授業のねらい

思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にしようとする態度を育てます。

## ★お話のあらすじ

孫がくずしてしまった段ボール箱を、おばあさんに代わって「わたし」と友達の友子が整理をします。しかし事情を知らない店員にしかられてしまいます。冬休み明けの全校朝会で、店員からの謝りの手紙を聞いて二人の心は明るくなるという内容です。たとえ人に認められなくても、相手の立場や気持ちを考え、誰に対しても温かく接することの大切さに気づくようにさせる教材です。この学習では、その場の主人公の行為を自分事の問題として考え、問題解決的な学習を進めて道徳的価値の認識に迫ります。

## ★子どもたちの授業の振り返り

- ☆この主人公はお店からお礼の手紙が来なくても、これからも困っている人がいたら親切にできると思います。なぜなら、主人公は自らお手伝いに行ったので、お店の人に怒られようが、親切にすることによって変わりがないと思ったからです。
- ☆これから困っている人がいたら、「助けても怒られてしまうかも」なんていろいろなことを考えずに「助ける」ことだけを考えて、勇気を出していきたいと思いました。
- ☆この主人公のように自ら行動できるようになりたいです。そして、相手の立場を考えて行動したいです。
- ☆今日は、大切なことをたくさん学びました。でも困っている人を助けるなんて勇気のいることです。ぼくはなかなか勇気が出せません。これからは、もう少し勇気を出したいと思いました。
- ☆私のすぐ近くで知らないおばあちゃんが急に倒れたことがありました。その時はただ立っていることしかできませんでした。今日この勉強をして、今度こんなことがあったら、大人にすぐに知らせてその判断を聞いて行動したいと思いました。

## ★家庭で話し合ってもらいたいこと

今日、人間関係が希薄になり、自分のことを優先して考え、他人のことは見て見ぬふりをする状況が多い社会になっているといわれています。それでも人は学校生活や社会生活の中で、人に温かく接したり助けられたりした経験でうれしかったことはたくさんあると思います。困っている相手に、助けてほしい相手に、どれだけ自分は寄り添い関わっていけるか。そのことを考え、自己の生き方について見つめてみる時間を、お子さんといっしょに持つてみてはいかがでしょうか。